

かけだしの頃

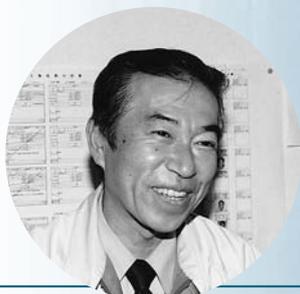


20代の頃
現場を車で颯爽と見回り中に
撮った1枚

株式会社不動テトラ
保土ヶ谷・瀬谷共同溝工事作業所 所長

古川 将行

1981（昭和56）年に不動建設株式会社に
入社。河川工事・高速道路工事を主に、
広く一般土木工事に携わる。



今だから
話せる
ゲンバ
の失敗
7

あれは現場に出て二年目の頃、河川の築堤整備工事の丁張り掛けで、今でも信じられない失敗をしたことがあります。

丁張り掛けというのは、地面以外に何もないところに、これからどう土を盛っていくか基準を示すもの。よく土工の現場で、地面に杭が打ってあって、そこに取りつけた板に赤い色で書き込みがされているでしょう。要はそれとんでもない間違いをしてしまったわけです。

河川の築堤整備工事の場合、丁張りの際に横断図が非常に重要であることは理解できると思いますが、ところでその横断図が川の upstream から河口を見つづられているか、河口から upstream を見つづられているか、どちらかわかりますか？

当時の私は河口から upstream を見つづられているとばかり思っていたのですが、実は「上流から河口を見つづられている」が正解で、つまり、横断図を一八〇度反対に見たままに丁張り掛けをしてしまったことがあるんです。

一応、ここで少し言い訳をさせてもらおうと（笑）、現場に出た年に造成工事に携わった関係で、そこで見える横断図、たとえば造成地につける道路などは「始点から終点を見て」図が描かれていました。だから、川も始点である河口から見るとの勝手に思い込んでしまった。

私がよくよく自分のミスに気づいたのは、いよいよ重機が現場に乗り込むという日の朝でした。さすがに私の仕事ぶり

が気になっていたのか、所長と一緒に「丁張りを点検したい」とおっしゃる。それで現場に一緒にいくと、開口一番「上流は向こうだよな」と念押しをしてくれる。

それで私が平面図を出しながら「そうです」と答えると、すかさず「オマエ、川の右岸と左岸はどうやって見るのか知らなかったのか？」とくるじゃありませんか。そのときになって、ようやく一八〇度反対に図を見ていたことに気づいたのですが、もう後の祭り。私の代わりに先輩が怒られてひどく悔しい思いをしました。

この事件があつてから、周囲はしばらく「コイツ（の仕事）は大丈夫なの？」という感じで接してくるようになりました。それ以降、懸命に仕事をして、とうとう最後には「古川は大胆な間違えじゃないから、大概のことは大丈夫だ」と言われるくらいにはなつたものの（苦笑）、そこに至るまでにはずいぶん苦労したことを覚えています。

今の私なら、どんな作業をするにしても必ず誰かと相談して事を進めますが、当時の私は「丁張りくらいなら一人でできる」と高を括っていたんでしょう。たとえば先輩などに、「こんな感じで進めます」と相談しなかった。遠目からでも先輩に見てもらえれば、こんなミスは簡単に防げたはずなんです。

独善的であることがいかに危険であるかを物語る、かけだしの頃の苦い思い出のひとつです。